

ばんどう文芸

短歌

年末に二十二枚の障子張る明るき部屋に孫も穩やか

今井 清 選

甘酒を沸かして飲んでる妻と嫁このつぶつぶを褒め合いながら

長 須 野口 芳子

葦の辺にさわぐ白鳥突風に圧おされて姿水面より消ゆ

岩 井 今村勝三郎

根三つ葉の根を挿しおけば芽を立てて厨の窓辺に春の訪ずる

矢 作 富山 節子

代々の仕来り守り暮らし来ぬ齡よわ重ねて途絶ゆるらむか

沓 掛 木村 愛子

さみしさを生きる証と冬の夜 酒飲みながらアルバム開く

沓 掛 倉持かよ子

側溝のふた音させて過ぎゆけり立ちこぎのまま中学の子ら

平八新田 吉岡 耿

庭先のみかんもぎとり年の瀬に幼き孫ら食い放題なり

駒 踨 内海 妙子

北風の吹く頻くあした門を開け吉永小百合の歌口ずさむ

岩 井 石塚よう子

着ぶくれの妻にも似たる寒雀つがいで今朝も霜降る庭に

山 栗原ヤエ子

「なおみ」立つ全英オープン頂点にパワー、メンタル、技も磨いて

岩 井 五十嵐三男

老いの身を恥りながらも新年の抱負述べたる三人姉妹

内野山 木村 仁

「いじりばい」よかと星になりドラマが終わる「西郷せごどんロス」となりにしか我

みむら 倉持ときの

生 子 高島みさ子

車椅子押しして眺めたこの桜ありし日の夫目に浮かび来る

長 須 鈴木 夫佐

【評】一首目、広く明るい空間に普段やや落ちつき着きのない孫(中学生位か)が登場させている心情が意味深長。二首目、妻と嫁が睦まじく居る情景がよい。三首目、「さわぎ」から静かな水面に移る情景描写に深い情趣がある。四首目、「立春」の文字が挿入されているのが心憎い。五首、六首目、どちらも上の句が重厚で共感できる。

短歌の作品を募集します！

皆さまからの短歌を広く募集します。投稿される方は、住所・氏名・年齢・電話番号を記入し、掲載希望月の前月20日までに
〒430-0911 選者宛にお送りください。なお、俳句につきましては、当面の間お休みさせていただきます。
選者 今井 清 〒4300610604 幸田新田4305 ☎0297(35)208604

「あやしいな おかしいな」と思ったら、消費生活センターへ ☎0297(35)208604